

令和3年度全国学力・学習状況調査分析と活用のポイントⅡ

質問紙調査の結果から授業改善，
学級経営，学校経営等の充実へ

～誰一人取り残さない学びの保障と教員一人一人の授業力向上を目指して～

熊本県教育委員会

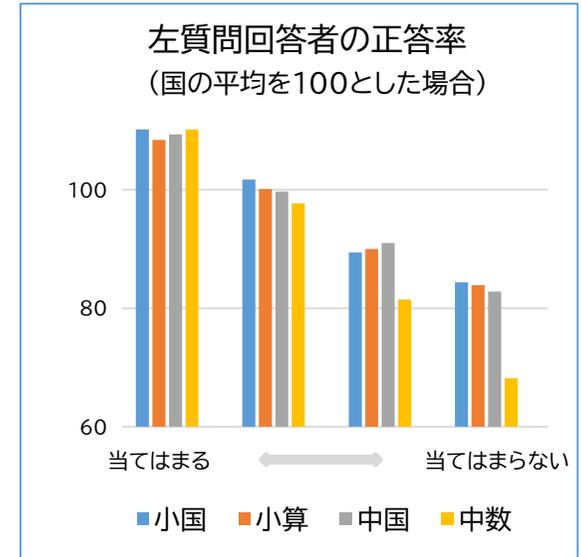
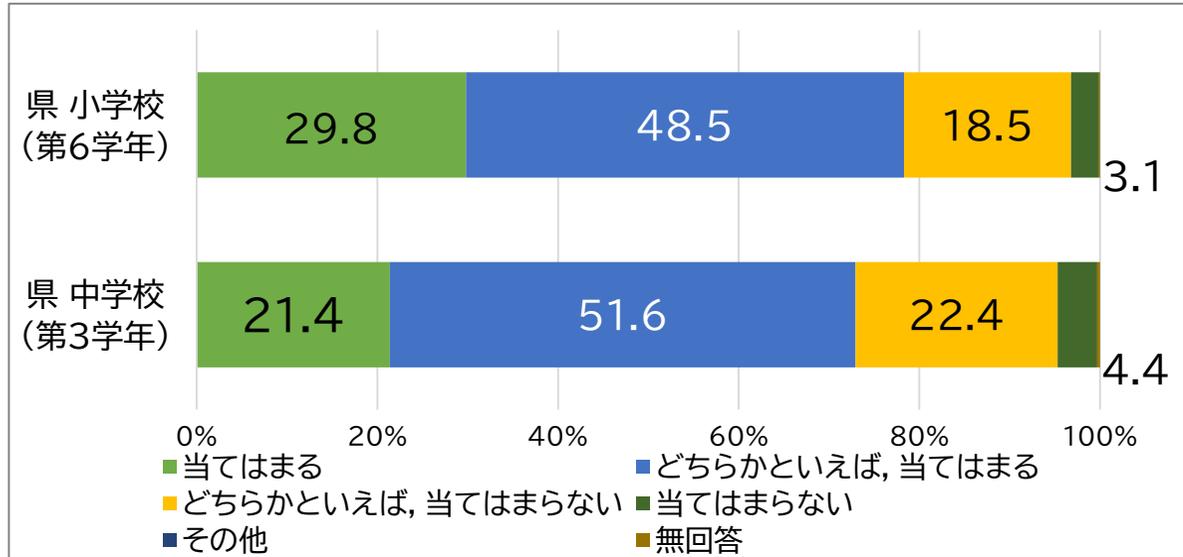
- 1 本県の分析と取組
 - (1) 主な質問項目の結果分析
 - (2) 今後の取組
- 2 各学校での分析と取組
 - (1) 分析の意義とポイント
 - (2) 分析の流れ
 - ① 質問項目の洗い出し
 - ② 結果の可視化
 - ③ 分析と取組
- 3 実践編「校内研修での活用」

1 本県の分析と取組

① 質問項目

【問38】 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか (※本年度新たな質問)

② 結果



③ 分析

小学校では8割近く、中学校では7割以上の児童生徒が、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると認識しています。学習内容の定着との相関関係を見ると、「当てはまる」と感じている児童生徒ほど正答率が高い傾向にあります。

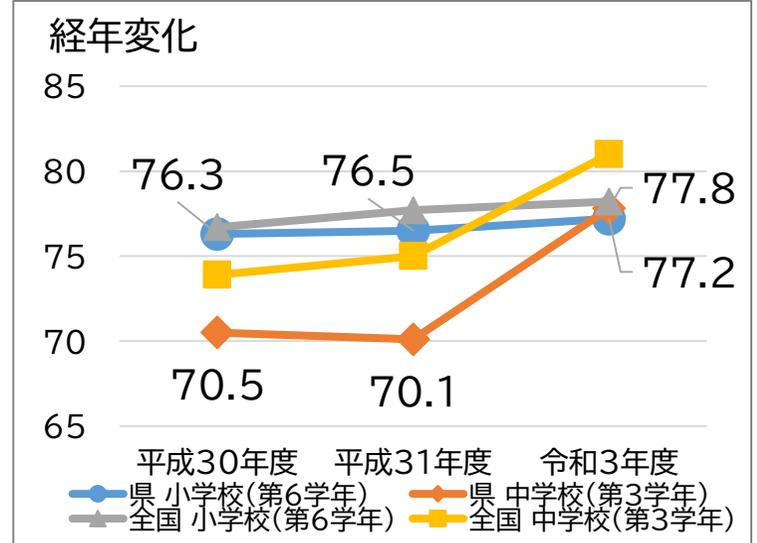
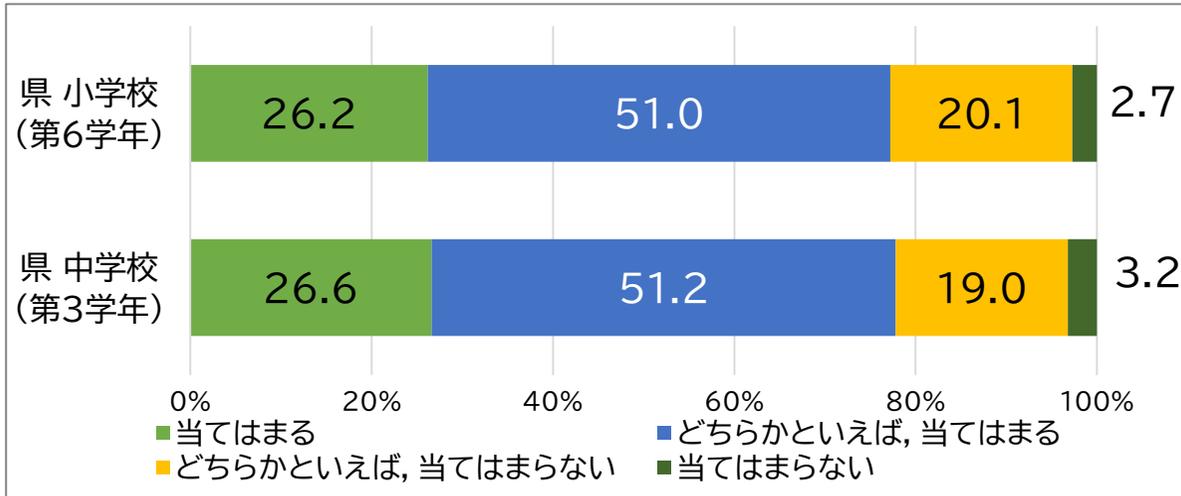
④ 今後の重点取組

- 授業中の理解が不十分であった児童生徒への支援
- 日々の授業の中で習熟や定着を図る等の支援 (習熟度別指導の充実)
(熊本の学び「アクションプロジェクト」柱1の重点取組1)

① 質問項目

【問33】 5年生まで（中学校は1，2年生の時）に受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと思いますか

② 結果



③ 分析

小中学校ともに8割近くの児童生徒が，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたと回答しています。経年変化をみると，小学校は少しずつ改善がみられ，中学校は昨年から大きく改善がみられていますが，全国平均より低い傾向が続いています。この質問に肯定的に回答した学校ほど，全ての教科において平均正答率が高い傾向が見られました。

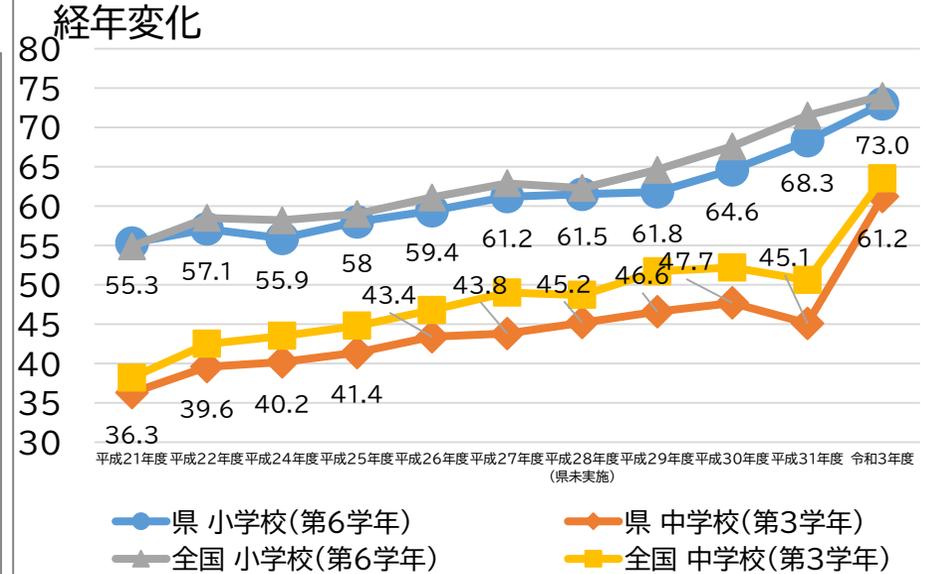
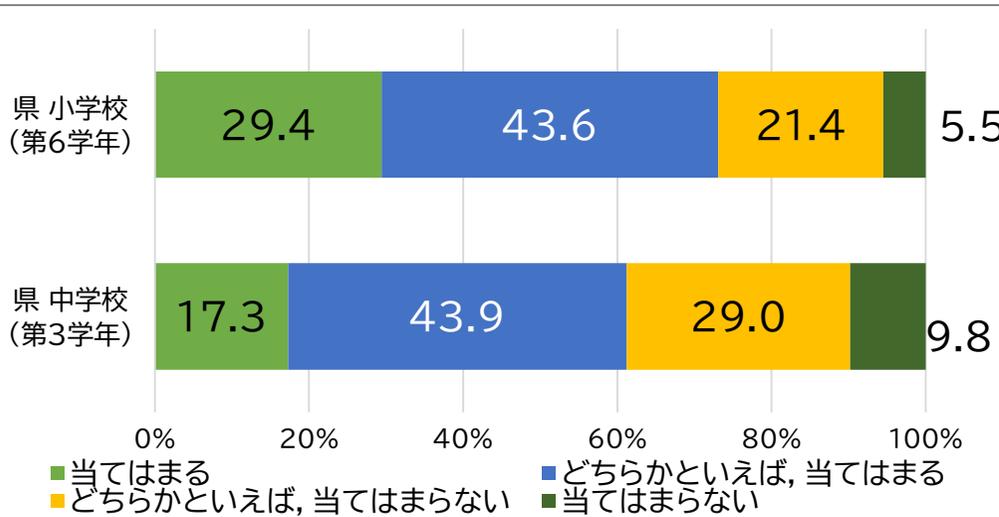
④ 今後の重点取組

- 児童生徒と「単元のゴールの姿」を共有
- 単元のゴールに迫る，単元を通した学習課題の設定
- ゴールの姿を実現するための学習活動の設定
(「熊本の学び推進プラン」 p 29～ P 31)

① 質問項目

【問 1 7】家で自分で計画を立てて勉強をしますか

② 結果



③ 分析

小学校では7割以上、中学校では6割以上の児童生徒が、家で自分で計画を立てて勉強していると回答しています。「当てはまる」と回答した児童生徒は、小学校で約3割、中学校で2割以下です。経年変化をみると、小中学校ともに、昨年度より改善傾向にあるものの、全国平均より低い値が続いています。

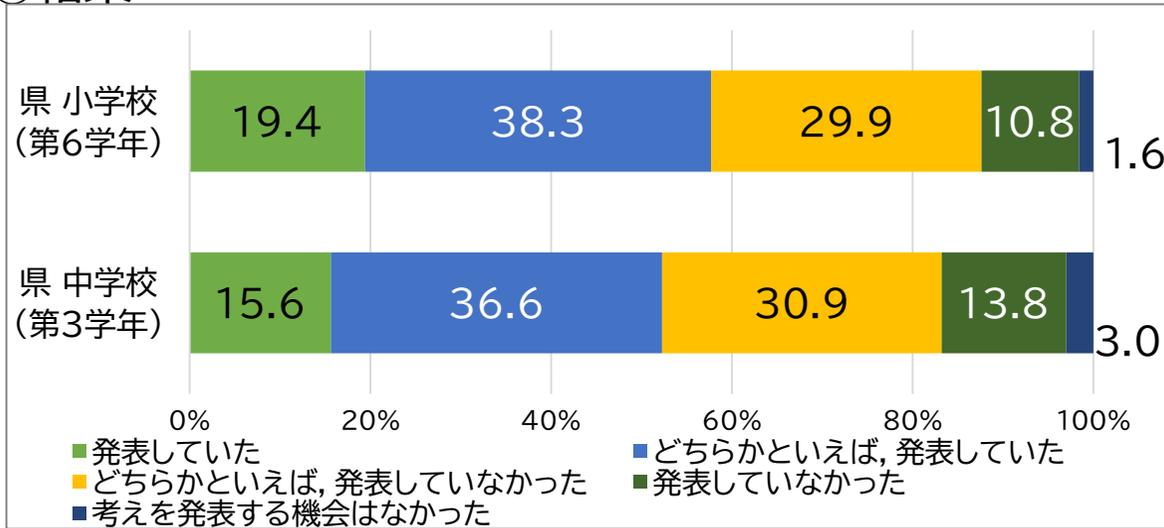
④ 今後の重点的取組

- 家庭学習まで見通した単元デザインの工夫
- 家庭と連携し、子供が自ら取り組む家庭学習の工夫
(「熊本の学び推進プラン」 p 9 1 ~ p 1 0 0)

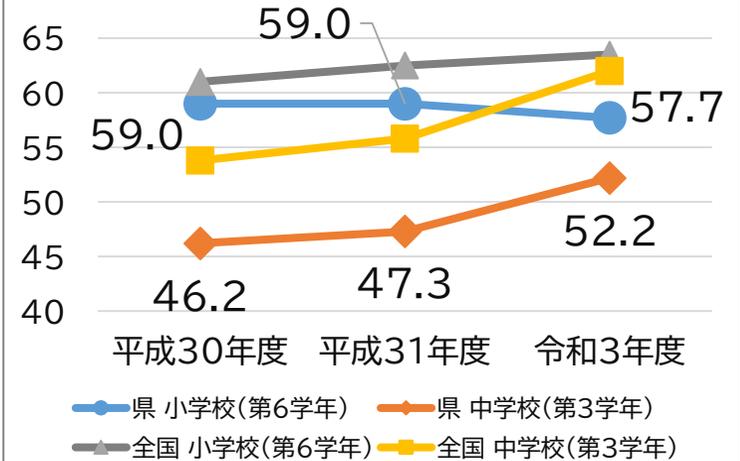
① 質問項目

【問32】授業で、自分の考えを発表するときは、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していると思いますか

② 結果



経年変化



③ 分析

小学校では6割程度、中学校では5割近くの児童生徒が、自分の考えを発表するときに、工夫して発表していると回答しています。一方で、「発表していなかった」と回答した児童生徒が小中学校ともに1割程度存在することから、自分の考えや話の組み立て方を指導して、誰もが、自分の考えを発表できるよう支援する必要があります。

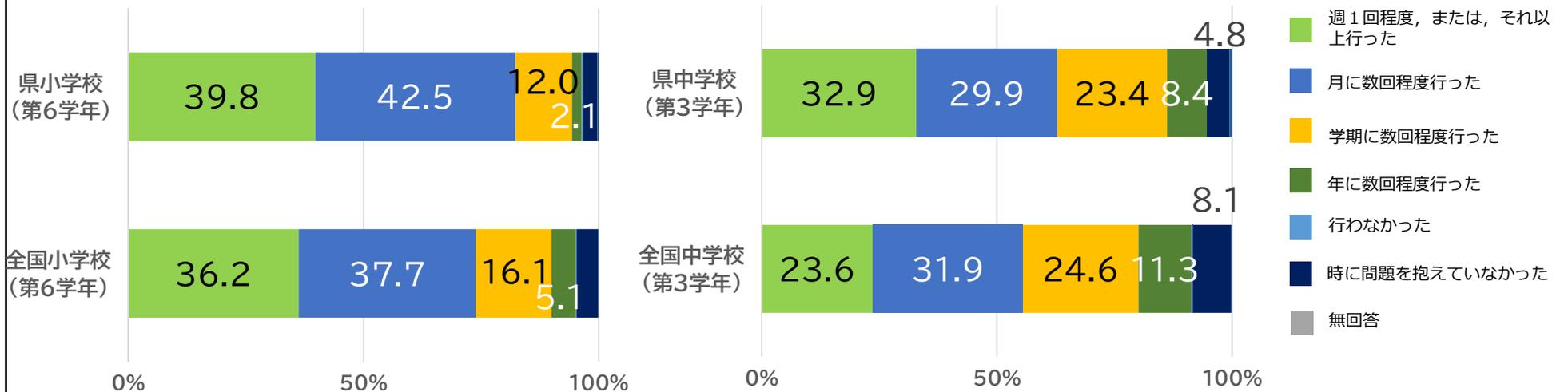
④ 今後の重点的取組

- 発表方法等を工夫するための十分な時間の確保
- 各目的や条件の明確化（教科書を読む範囲、キーワード、話の組み立て方、根拠や理由の示し方など）
 （「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱1の重点取組）

① 質問項目

【問 1 3】 校長として、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

② 結果



③ 分析

小中学校ともに、「週に1回程度, それ以上」「月に数回程度」と回答した割合が、全国に比べ7ポイント以上高い状況にあります。特に、中学校では、「週に1回程度, それ以上」と回答した割合が、全国に比べ9ポイント以上高いです。「熊本の学び」授業実践7つのチェックリストや「熊本の学び推進プラン」を活用した校長による指導助言が見られます。

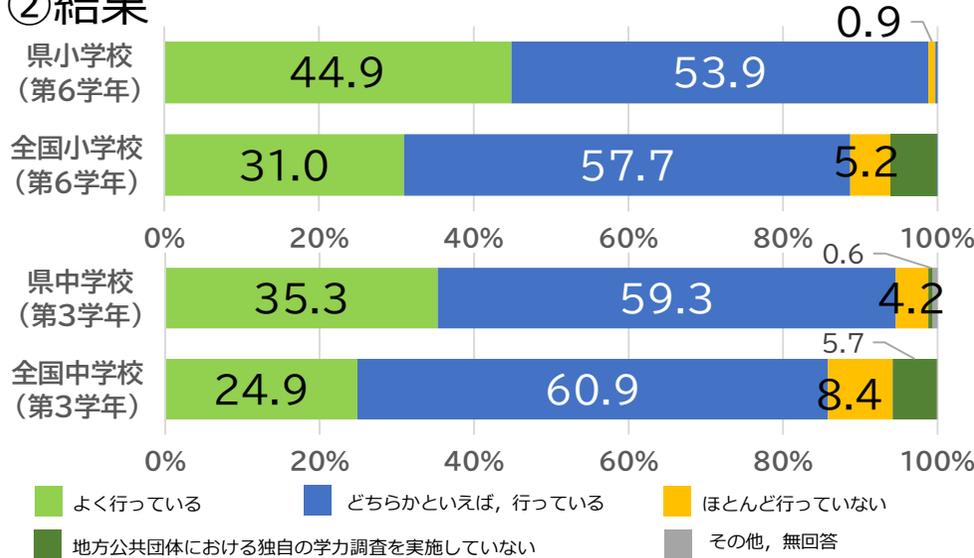
④ 今後の重点的取組

- 授業観察の習慣化
- 校内研修の重点化
- 構想, 省察の習慣化
- (「熊本の学び」アクションプロジェクト 柱2の重点取組)

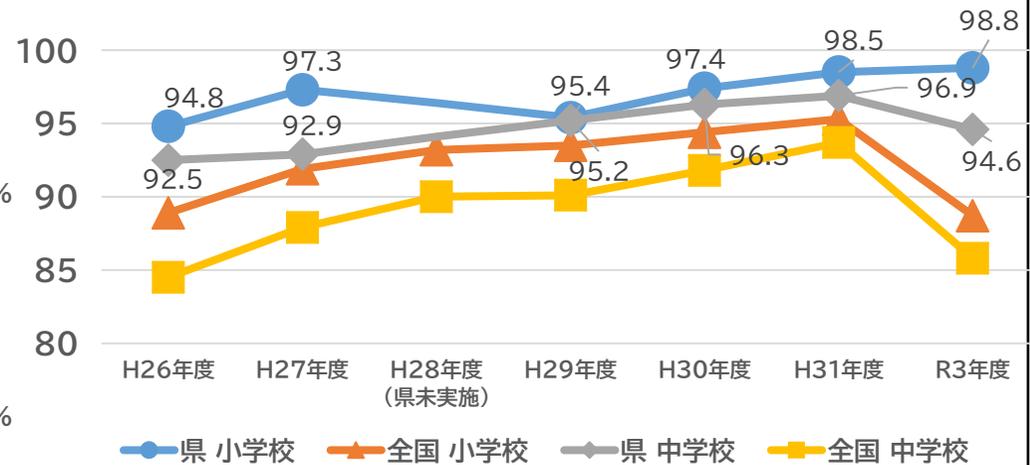
① 質問項目

【問 9 1】 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか

② 結果



【経年変化】 「よく行っている」 + 「どちらかといえば、行っている」の割合



③ 分析

学力向上検証改善サイクル実施に基づいた取組については、小中学校ともに全国平均を上回っています。小学校では、全国値の割合が低下する中で割合が増加、中学校においても、全国値ほどの下降傾向はみられません。「当てはまる」と回答した割合は、小中学校ともに10ポイント以上全国平均を上回っています。また、国のクロス分析では、「よく行っている」と回答した学校ほど、学力向上で成果を出していることが分かります。

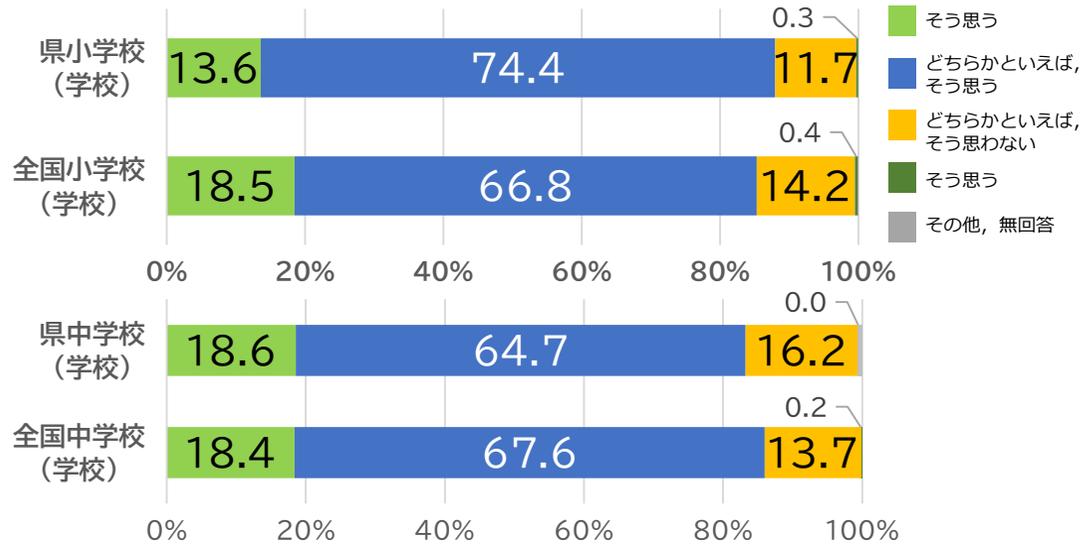
④ 今後の重点的取組

- 12月の県学力・学習状況調査に向けた課題改善の取組
- 子供と教師のための効果的な学力向上検証改善サイクルの確立
(「熊本の学び推進プラン」 p 75 ~ p 84)

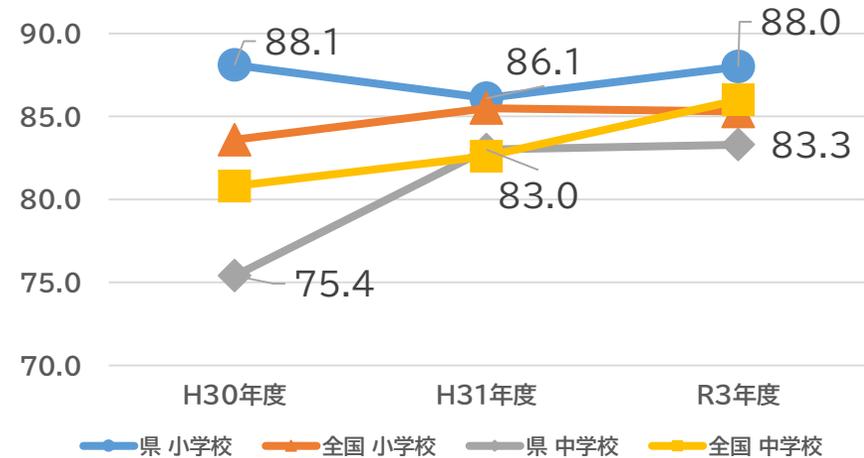
① 質問項目

【問29】児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

② 結果



【経年変化】「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合



③ 分析

小学校では、肯定値で比較すると全国値より高いものの、最肯定値で5ポイント程度差がみられます。中学校では、肯定値及び最肯定値を全国値と同程度です。この質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、各教科の平均正答率が高い傾向が見られました。

④ 今後の重点的取組

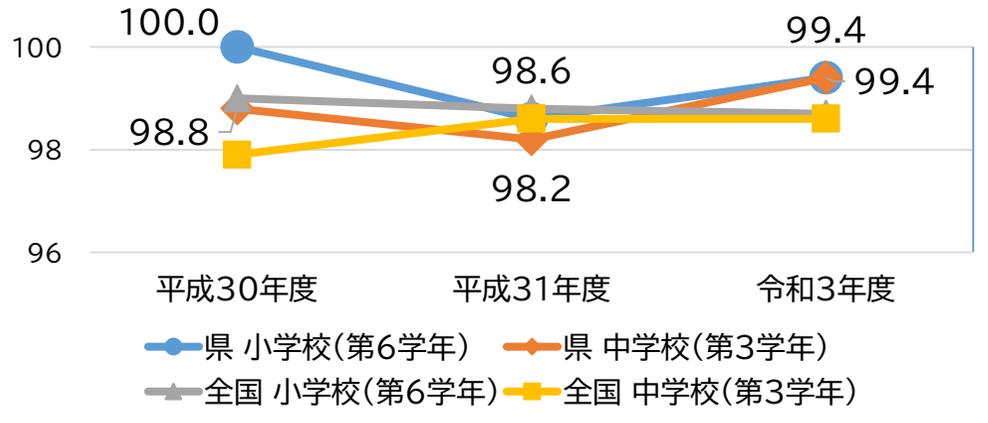
- 子供の実態を踏まえた上での、単元のゴールの姿の設定と子供との共有
- 単元のゴールに迫る学習課題の設定、学習過程の構想
(「熊本の学び推進プラン」p31)

①質問項目

【問 1 1】 前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ（褒めるなど）取組を行いましたか

②結果

【教師】 経年変化※数値は県のもの



(参考)

【問 7】 授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか（「そう思う」+「どちらかという、そう思う」の割合）

小学校	県	全国	差
	90.7	88.5	+2.2
中学校	県	全国	差
	91.0	96.0	-5.0

③分析

小中学校ともに、全国平均を超え、高い数値を示しています。各学校で、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現が目指されている成果です。

④今後の重点的取組

○安心と信頼にあふれ、高め合う学級づくりに向けた「熊本の教師の心がけ10か条」の実践
 （「熊本の学び推進プラン」 p 66～ p 72）

1 - (3) 今後の取組

「熊本の学び推進プラン」第2章から（p 11～p 25）

各学校のPDCAサイクルを基に、改善・充実の好循環を生み出しましょう。
～教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を目指すカリキュラム・マネジメントの推進～

【改善・充実の好循環を生み出すステップ】

取組に必要な「教育内容等の組み立て，教育課程の改善，人的・物的体制（カリキュラムマネジメントの三側面）」を準備して取り組むことがポイントです。

9月
～
11月

- ①調査結果を基に，全職員でアイデアや情報を出し合い，今後の目標や取組を考える。
- ②目標実現に向けて，五者で連携して取り組む。

12月
～
1月

- ③12月実施の県学力・学習状況調査で，授業改善，学級経営，学校経営の取組を検証する。

2月
～
R4年4月

- ④調査結果，分析を基に，今後の目標や取組を考え，共有する。
個人票を基にしたアドバイス，学習プリント等で一人一人の課題克服等に取り組む。

R4年
4月

- ⑤R4全国学力・学習状況調査（小学校：国語，算数，理科，中学校：国語，数学，理科）で，授業改善，学級経営，学校経営を検証する。

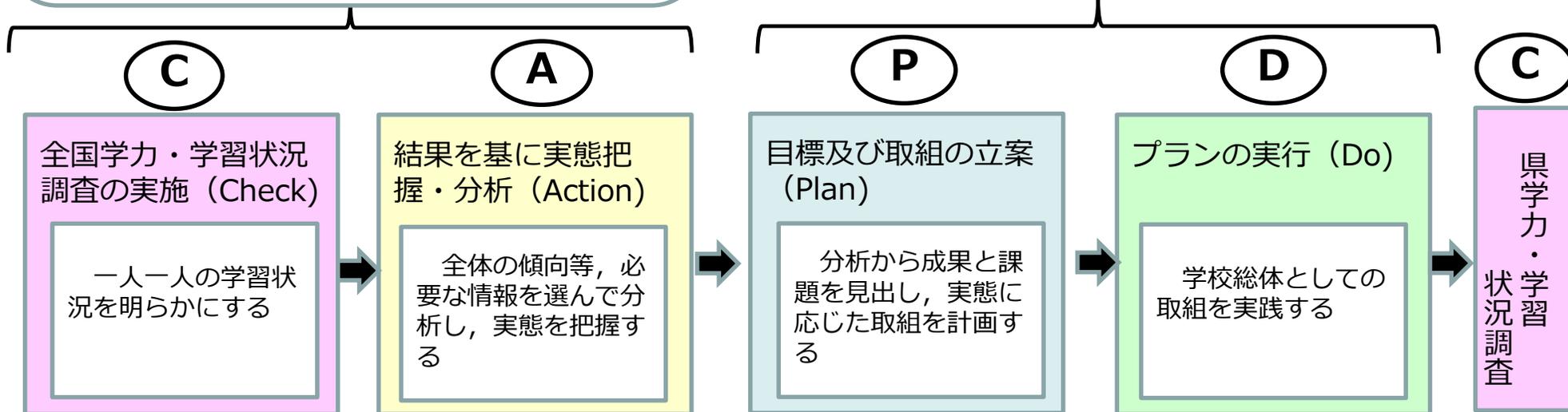
2 各学校での分析と取組

2 - (1) 分析の意義とポイント

<分析の意義>

◇学力調査の結果から、各学校の授業や学びの保障の取組状況が把握できます

◇調査結果を分析し、共有することで、課題解決に向けた授業改善が充実します



結果分析から、自校の「熊本の学び」推進プランや「熊本の学び」アクションプロジェクトに関する取組の成果と課題を見付け、課題改善に向けた取組計画の立案と実践を行いましょう。

2 - (1) 分析の意義とポイント

<分析のポイント>

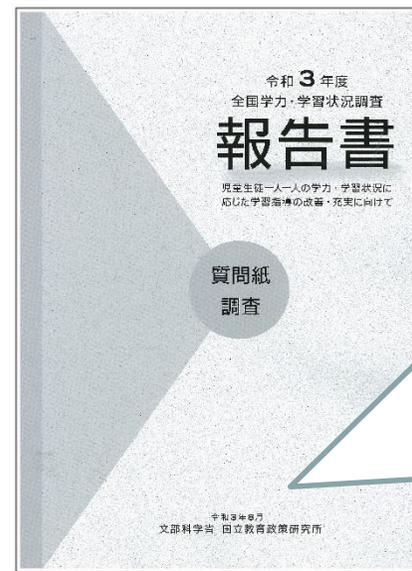
◇教科に関する調査の結果から授業改善へ

◇質問紙調査の結果から授業改善及び学級経営, 学校経営等の充実へ

全国学力・学習状況調査の**解説資料**と**報告書**が分析と改善の拠り所となります。



調査終了後、速やかに学力や学習の状況、課題を把握し、学習指導の改善・充実等に取り組む際に参考となる資料



結果提供後、設問ごとの解答状況、成果や課題の有無、特徴的な解答の分析等、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを示した資料

◇質問紙調査の結果から授業改善及び学級経営, 学校経営等の充実へ

【分析の流れ】

- ① 質問項目を洗い出す
- ② ①について, 表やグラフで可視化する
- ③ 結果を分析し, 課題改善の取組を考える

※「教科に関する調査の結果から授業改善へ」については, 別の資料にて紹介します。

2 - (2) 分析の流れ①「質問項目の洗い出し」

① 学校教育目標、育成を目指す資質・能力につながる質問項目を洗い出しましょう。

※学級経営，校内研修等でも考えられます。

グランドデザインの一部（一部分を抽出）

学校教育目標
主体的に学ぶ，心豊かな〇〇っ子の育成

目指す子どもの姿

主体性：目的をもって進んで考え判断し，責任をもって行動し，**最後までやり遂げる子供**
協働性：思いに気づき，目的を共有しながら多様な他者と関わり，協力して行動する子供
創造性：主体性，協働性を基盤として，新たな考えを創りだし，より豊かに生きる子供

重点的に育成を目指す資質・能力

主体的
に

コミュニケーション力
問題発見・解決能力 **粘り強さ**
創造性 規範意識

心豊か
に

学習部

○教科の本質を捉えた学習展開による深い学びの実現

自立部

○自立的な児童集団の形成
○考える道德の・・・

生活部

○家庭，地域と連携した生活習慣・食習慣づくり

グランドデザインや経営案等を踏まえ，質問項目を洗い出す。

(例) 児童生徒質問紙の問8「自分でやると決めたことは，やり遂げるようにしている」について，回答割合や経年変化を見ていく。

(例) 学校質問紙の問83の回答割合から，コミュニティ・スクールの取組状況を分析していく。

2 - (2) 分析の流れ①「質問項目の洗い出し」

【児童生徒質問紙及び学校質問紙の主な項目】

児童生徒質問紙対応表

	質問番号	調査年度	調査ページ	クロス分析 ページ
1 基本的な生活習慣等	小学校調査	1~4	10~12	92~94
	中学校調査	1~4		
2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等	小学校調査	5~10	13~19	95~101
	中学校調査	5~10		
3 学習習慣等	小学校調査	17~22	20~23	102~105
	中学校調査	17~22		
4 地域や社会に関わる活動の状況等	小学校調査	23~26	24,25	106~108
	中学校調査	23~26		
5 部活動に関する状況	小学校調査		28	108,110
	中学校調査	27~29		
6 ICTを活用した学習状況	小学校調査	27, 28	27	111,112
	中学校調査	30, 31		
7 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	小学校調査	29~36	28~31	113~117
	中学校調査	32~39		
8 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)	小学校調査	37~45	32~36	118~122
	中学校調査	40~48		
9 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)	小学校調査	46~56	37~43	123~128
	中学校調査	49~53		
10 学習に対する興味・関心や授業の理解度等(英語)	小学校調査		44~47	129~135
	中学校調査	54~66		
11 各教科の調査時間の適切性	小学校調査	57, 58	48	136,137
	中学校調査	67~69		

報告書には、質問紙対応表があり、それぞれの質問がどういった項目に関する調査であるか、掲載ページとともに記載してあります。

R3年度児童生徒質問紙の主な項目

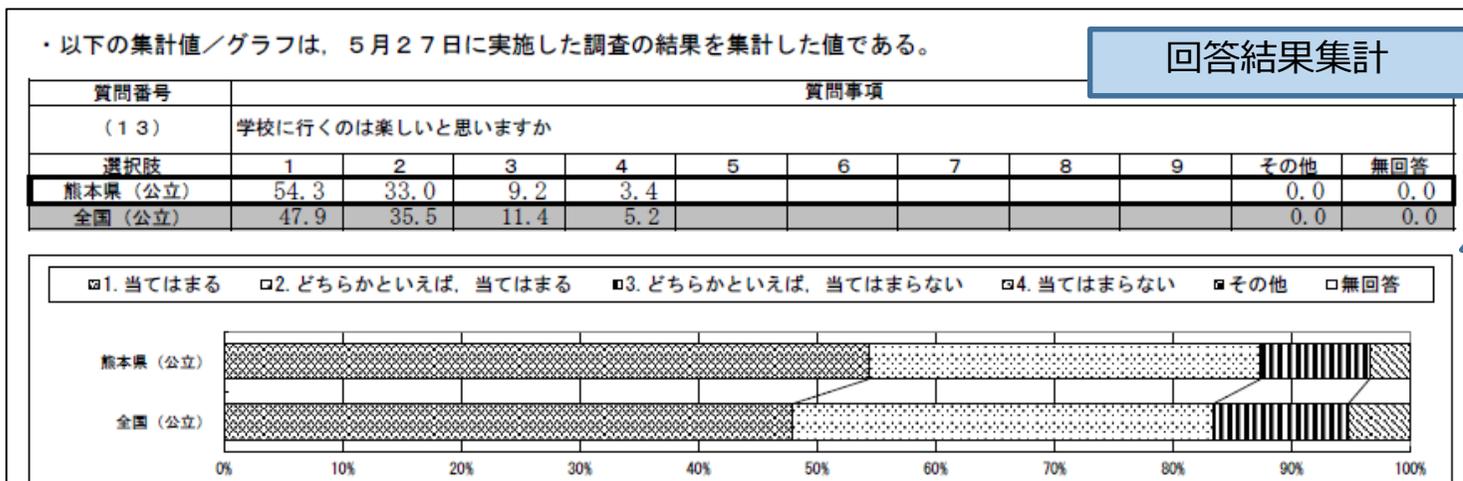
- 1 基本的な生活習慣
- 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感
- 3 学習習慣等
- 4 地域や社会に関わる活動の状況等
- 5 部活動に関する状況
- 6 ICTを活用した学習状況
- 7 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 8 学習に関する興味・関心や授業の理解度等(国語)
- 9 学習に関する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)
- 10 各教科の調査時間の適切性
- 11 新型コロナウイルス関連項目

R3年度学校質問紙の主な項目

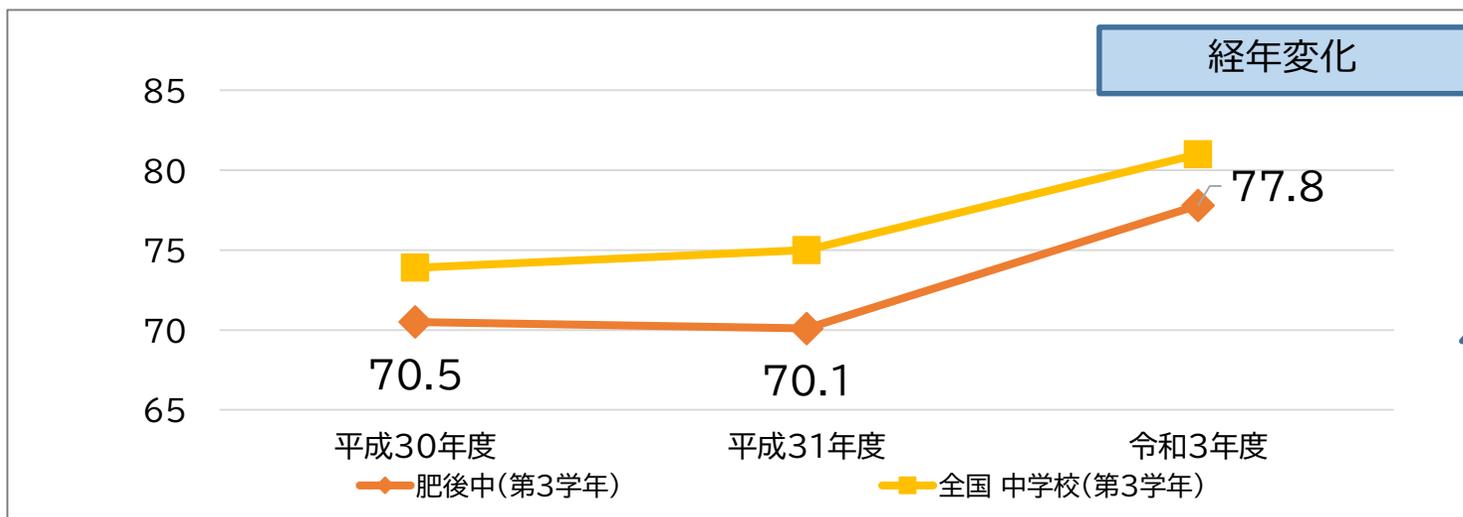
- 1 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感
- 2 カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況
- 3 教職員の資質能力の向上
- 4 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- 5 国語科の指導方法
- 6 算数・数学科の指導方法
- 7 ICTを活用した学習状況
- 8 小学校教育と中学校教育の連携
- 9 家庭や地域との連携等
- 10 家庭学習
- 11 全国学力・学習状況調査等の活用
- 12 新型コロナウイルス関連項目

2 - (2) 分析の流れ②「結果の可視化」

② 洗い出した質問項目について、表やグラフで可視化しましょう。



学校に提供されている、「回答結果集計」を活用する。

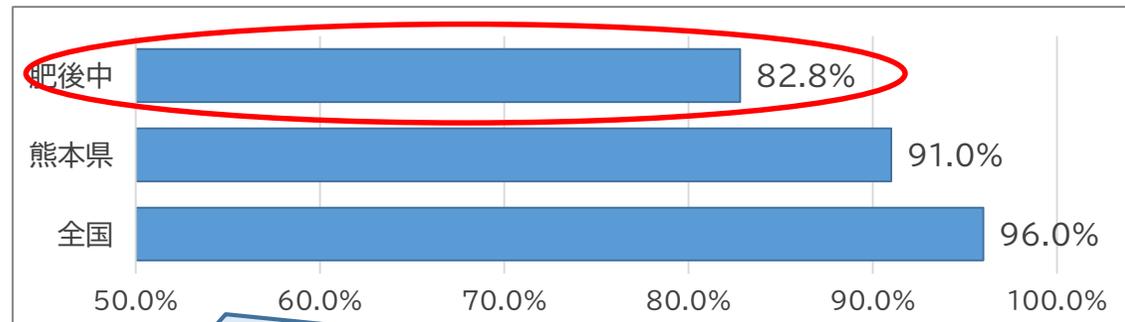


経年変化は折れ線グラフや棒グラフ等で可視化する。

2 - (2) 分析の流れ③「分析と取組」

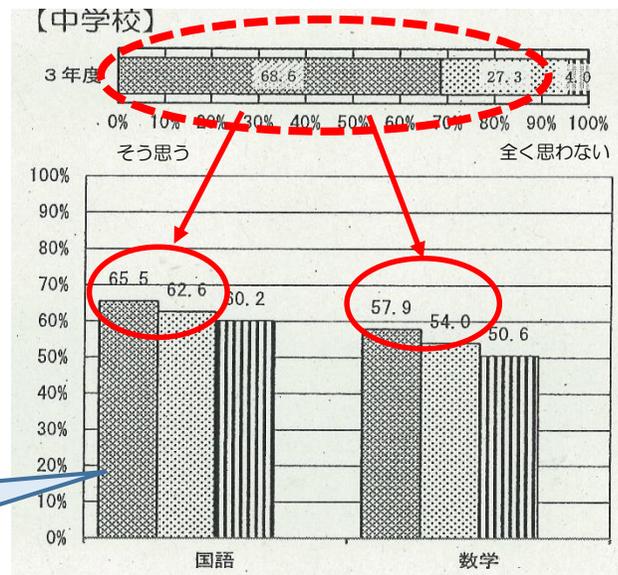
③ 結果を分析し, 課題改善の取組を考えましょう。

(例)「学校質問紙7 調査対象年学年の生徒は, 授業中の私語が少なく, 落ち着いていますか。」の結果



分析1: 肯定した生徒の割合を全国値, 県平均と比べると, 肥後中は低い傾向にある。

分析2: 国のクロス分析では, 肯定率が高い学校ほど, 教科の平均正答率が高い傾向にあることを確認する。



取組を考えるためのポイント

- これまでの取組を振り返り, 成果や課題を洗い出す。
- 授業, 行事, 児童会・生徒会等での子供の様子を共有する。
- 学校教育目標の実現や育成を目指す資質・能力に向け五者連携で取り組むことを考える。
- 「熊本の学び推進プラン」, 「熊本の学び」アクションプロジェクト, 「熊本の学び推進プラン」取組事例集等を参考にする。

3 実践編 「校内研修での活用」

実践編「校内研修での活用」

◇これまでの分析の流れを基に、質問紙調査の分析について、校内研修を行いましょよう。

- ① 学校教育目標(学年・学級経営, 校内研修等)の実現につながる質問項目を洗い出しましょう。
- ② 洗い出した質問項目について, 表やグラフで可視化しましょう。
- ③ 結果を分析し, 課題改善の取組を考えましょよう。

次のページからは, 校内研修のシートを掲載しています。そのまま印刷して活用していただくこともできます。御活用ください。

校内研修シート① 「質問項目の洗い出し」

○学校教育目標，育成を目指す資質・能力等

実現に向けて，**児童生徒質問紙**から質問項目を洗い出しましょう。

実現に向けて，**学校質問紙**から質問項目を洗い出しましょう。

